苦林野古戦場跡（入間郡毛呂山町）

にがばやしのこせんじょうあと

苦林野合戦に際し足利基氏（足利尊氏の四男）が築いたとされるのが足利基氏館跡（足利基氏墨跡）で、東松山市に所在する/足利基氏は反旗を翻した芳賀高名入道禅可の命を受けた嫡男の芳賀高貞らを討伐するために、平一揆・白旗一揆らを引き連れて武蔵に着陣し芳賀軍と合戦を行った/「太平記」には、これが武蔵岩殿山合戦と呼ばれる戦いで、苦林野はその主戦場であったと記載されている/この戦いの規模はそれほど大きくないが、中世関東の歴史の一つの転換点となった（この後に延々と続く鎌倉公方（古河公方）と関東管領上杉氏とのいざこざは、応仁の乱に先立って関東を戦国時代へと導くのである）/この写真は毛呂山町に所在する苦林野古戦場跡のエリア/手前に並ぶのは神明台の庚申塔・馬頭観音　（クリックしてビデオを見る）

ここは苦林野古戦場跡近くに所在する大類古墳群の大類1号墳（苦林古墳、観音塚古墳とも呼ばれる）/6世紀末～7世紀初頭築造の前方後円墳/手前が前方部、奥が後円部/墳頂には説明板や石碑が立っている

これは反対に、後円部から前方部方向を見たところ

墳丘を登り、前方部から後円部方向を見たところ

毛呂山町指定　記念物　史跡　　昭和三十九年五月一日指定

苦林古墳

埼玉県指定旧跡　　昭和三十六年九月一日指定

苦林野古戦場

毛呂山町指定　有形民俗文化財　　平成二十七年三月十九日指定

苦林野合戦供養塔

越辺川右岸の毛呂山町川角から坂戸市塚原の台地上には、古墳が一〇〇基以上分布し、苦林古墳群と呼ばれています。苦林古墳群は、県内では行田市埼玉古墳群に次ぐ前方後円墳の密集地であり、苦林古墳は、現存長約二三mの古墳時代後期の小型前方後円墳です。

苦林古墳群一帯は、中世の頃から苦林野と呼ばれ、合戦の舞台となりました。貞治二年六月（一三六三・一説に貞治四年）、鎌倉公方足利基氏の軍勢三千余騎と前越後守護職宇都宮氏綱の重臣芳賀禅可の嫡子高貞、次男高家の軍勢八百余騎が苦林野で激突しました。『太平記』の「小塚の上に打ち上りて…」とある小塚は苦林古墳といわれています。

苦林古墳の上には、江戸時代の文化十年（一八一三）銘の千手観音の石仏があります。背面には古戦場の由緒を刻み、両側面には六体の仏を文字で表しています。浮彫の千手観音像を合わせた七体を日を違えて順次本尊として祭ったと考えられる珍しい七夜待塔で、苦林野合戦の戦死者供養のため、里人により建立されました。

平成二十九年三月

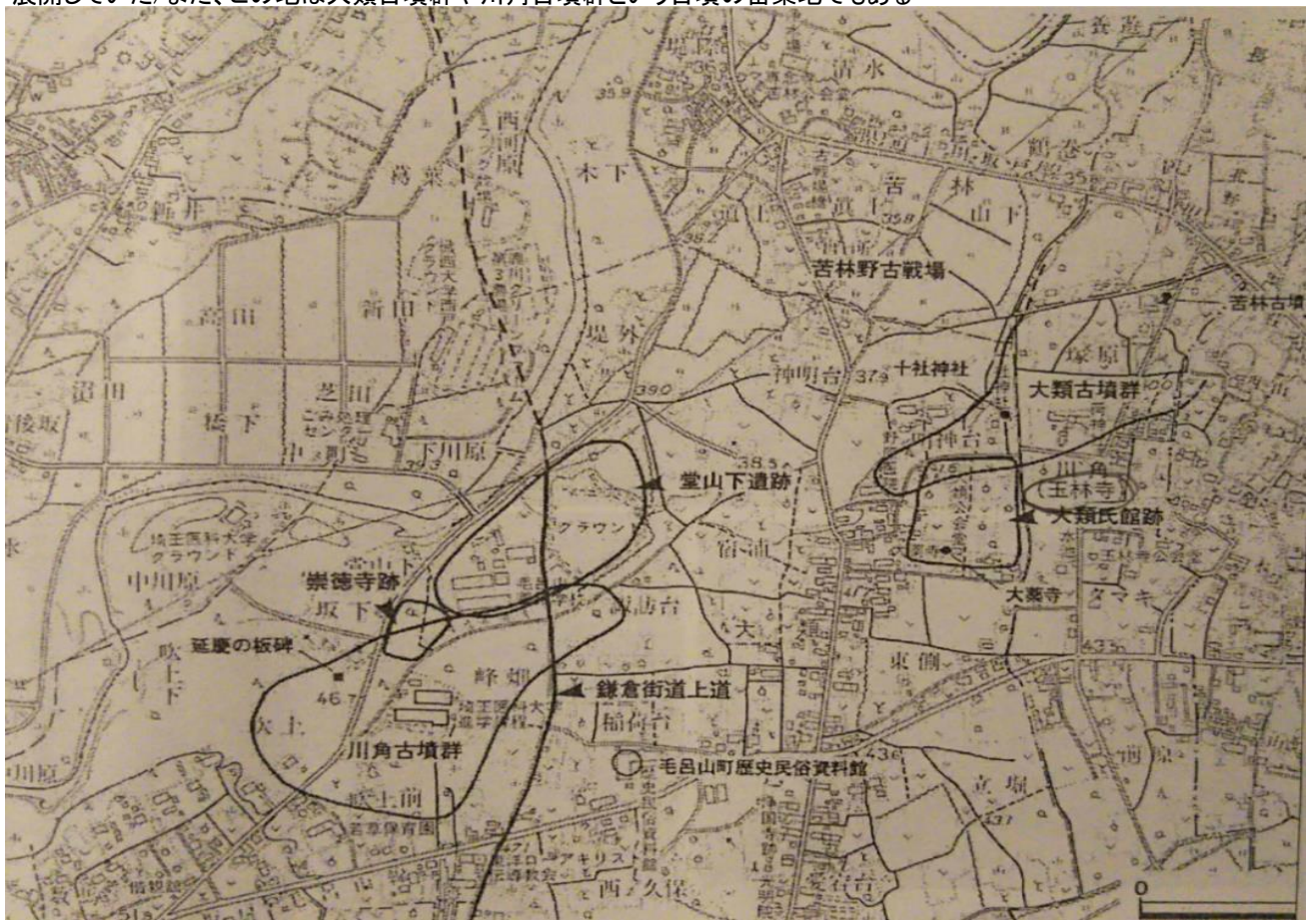
毛呂山町教育委員会

「太平記」には「小塚の上に打上る・・・」という記述がある/この絵は江戸時代の新編武蔵風土記稿に描かれた苦林野図で、前方後円墳の墳頂に石碑が見える/「村民の建し石碑かの長塚の上にあり、正面に千手観音の像を刻し・・・この地に於いて戦えし由を彫る・・・」とあり、この長塚は苦林古墳のことであり、その石碑は苦林野合戦供養塔であると云う/苦林古墳のほかにも多数の古墳が描かれている

これが「苦林野合戦供養塔」/千手観音の像が刻まれている/伝承に基づいて、江戸時代に村民の手により造立されたようだ

背面には貞治4年（1365年）6月17日にこの地で、足利基氏と芳賀高貞ら両軍の戦いがあったことが刻まれている（貞治2年の間違いらしい/伝承だから・・・）

苦林野古戦場跡は中世の時代の鎌倉街道上道沿いに位置し、近くの越辺川の渡河地点には苦林宿（堂山下遺跡）が展開していた/また、この地は大類古墳群や川角古墳群という古墳の密集地でもある



赤丸が足利基氏館跡で、四角い赤の所が苦林野古戦場跡/足利基氏館跡近くの「岩殿山」のエリアでの合戦、苦林野での合戦と広い範囲にわたってせめぎ合いがあったのであろうか/地形的にみると足利基氏館跡から岩殿山正法寺（岩殿観音）のエリアは丘陵状になっていてアップダウンがきついので、合戦をするとなるとやはり平坦で広い苦林野が適していたと思われる/まだ鉄砲などの飛び道具が無い時代なので、「ヤアヤア、我こそは・・・」と名乗ってから戦うとなると、ここが良いスチューエーションになるようだ